

相互教授型作文支援システムにおける相互添削促進手法の実現

山口昌也(国立国語研究所)

北村雅則(名古屋学院大)

■ 概要

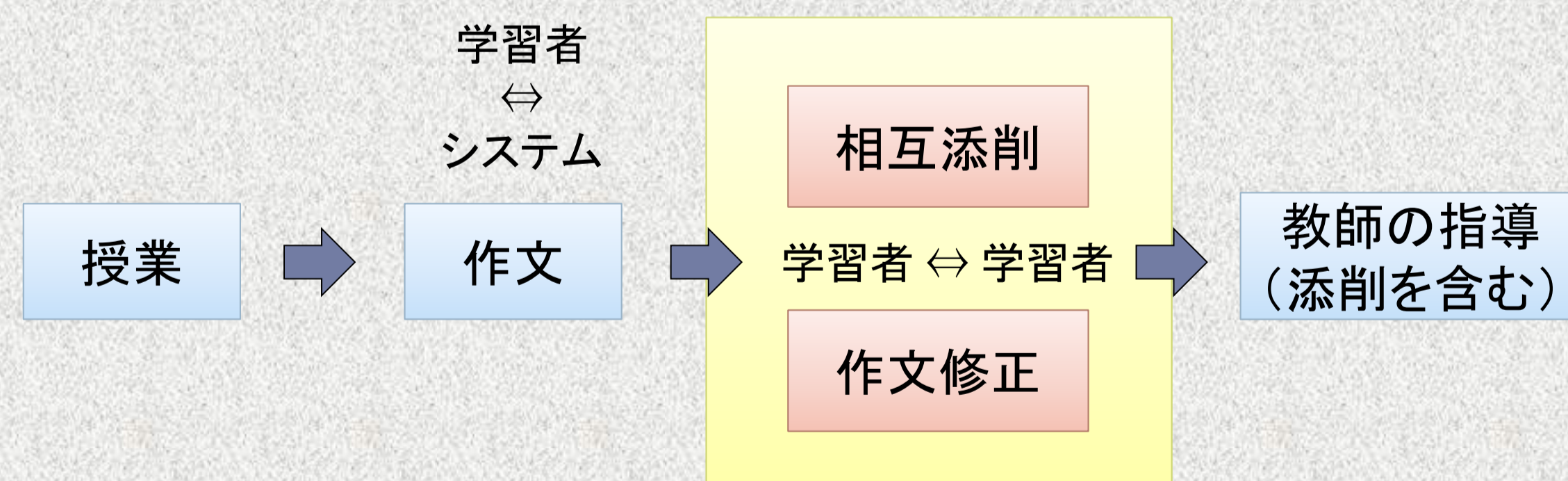
● 作文支援システムTEachOtherS

- Web ベースの学習者向け作文作成支援システム
- 学習者, 教師, TEachOtherS が互いの知識を教えあうことにより, 学習者の効果的・自発的な作文技術習得を目指す
- 大学の日本語文章表現の授業での運用を想定して開発

● 本研究の目的

- 学習者間の相互添削を促進するための手法を提案
- 実際の授業の作文課題に提案手法を適用
- 提案手法の有効性の確認

■ 相互教授型の作文支援の概要



● 相互添削の方法

- 1作文に複数の添削者
- 添削内容とともに, 添削種別を付加
- 添削内容に基づき, 作文を修正

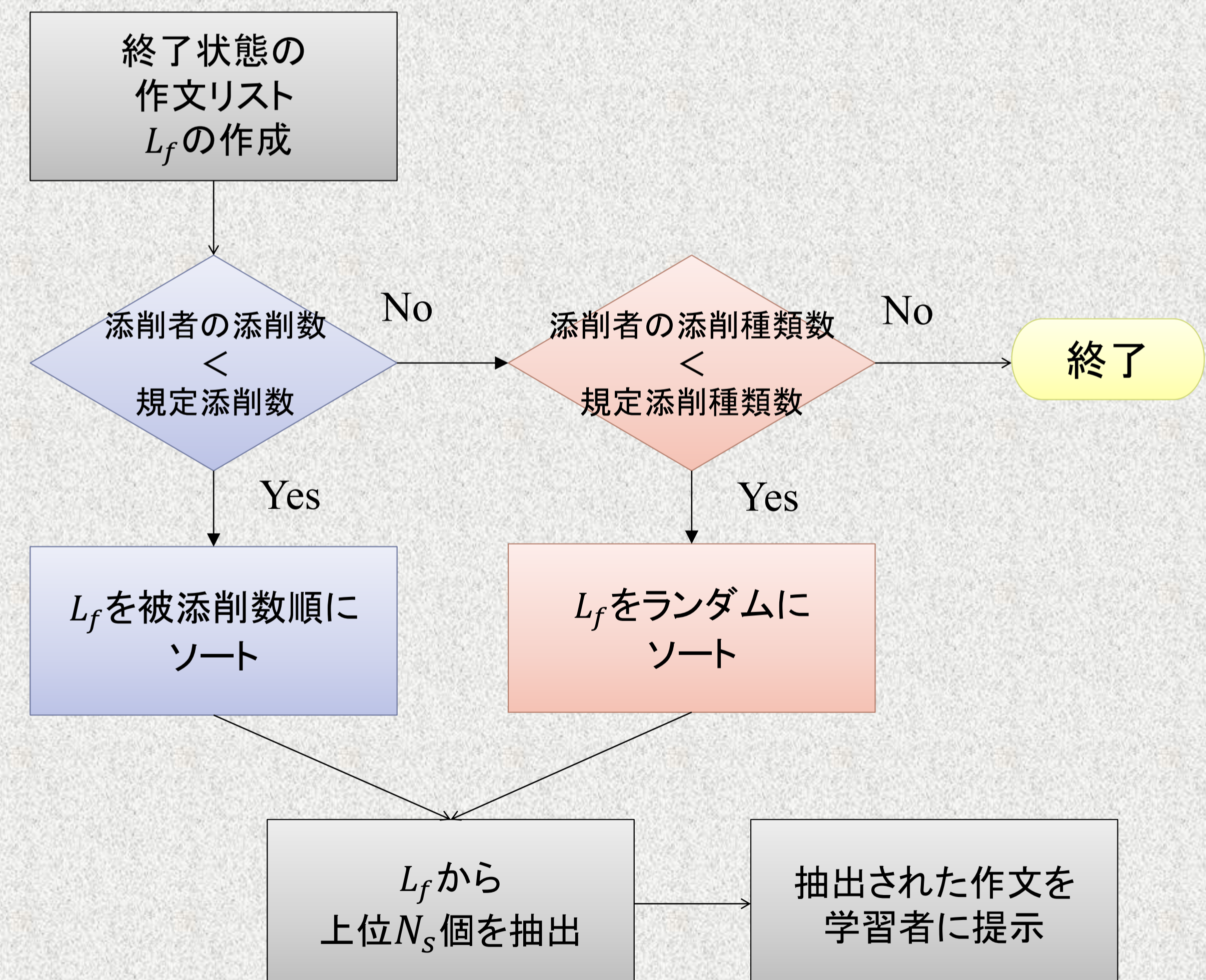
本研究の適用対象

■ 相互添削促進手法

● 学習者に添削候補の作文を提示

- 学習者が多数・多種類の添削をする。かつ, 多数・多種類の添削を受けられるようにする。
- 特定の学習者に添削が集中することなく, 学習者が均一に一定以上の添削を受けられる。
- 欠席や遅刻した学生も含めて, スムーズに相互添削に参加できるようにする

● 添削候補作文の作成手順



■ 実験方法

- 被験者： 大学1年生2クラス(1クラス 20 ~ 30 人)
- 作文課題： 国旗課題
 - 6種類の国旗を自分の観点から二つのグループに分けて、その共通点、相違点を説明する。
 - 400字以上
- 時間配分：
作文1コマ(90分), 添削・修正1コマ(90分)
- 添削種別：
誤字・脱字, 口語表現, 語彙・接続表現, 説明不足, 冗長, その他
- 規定添削数： 5, 規定添削種別数： 3
(相互添削前に教師が簡易な添削を実施して, 決定)

■ 実験結果

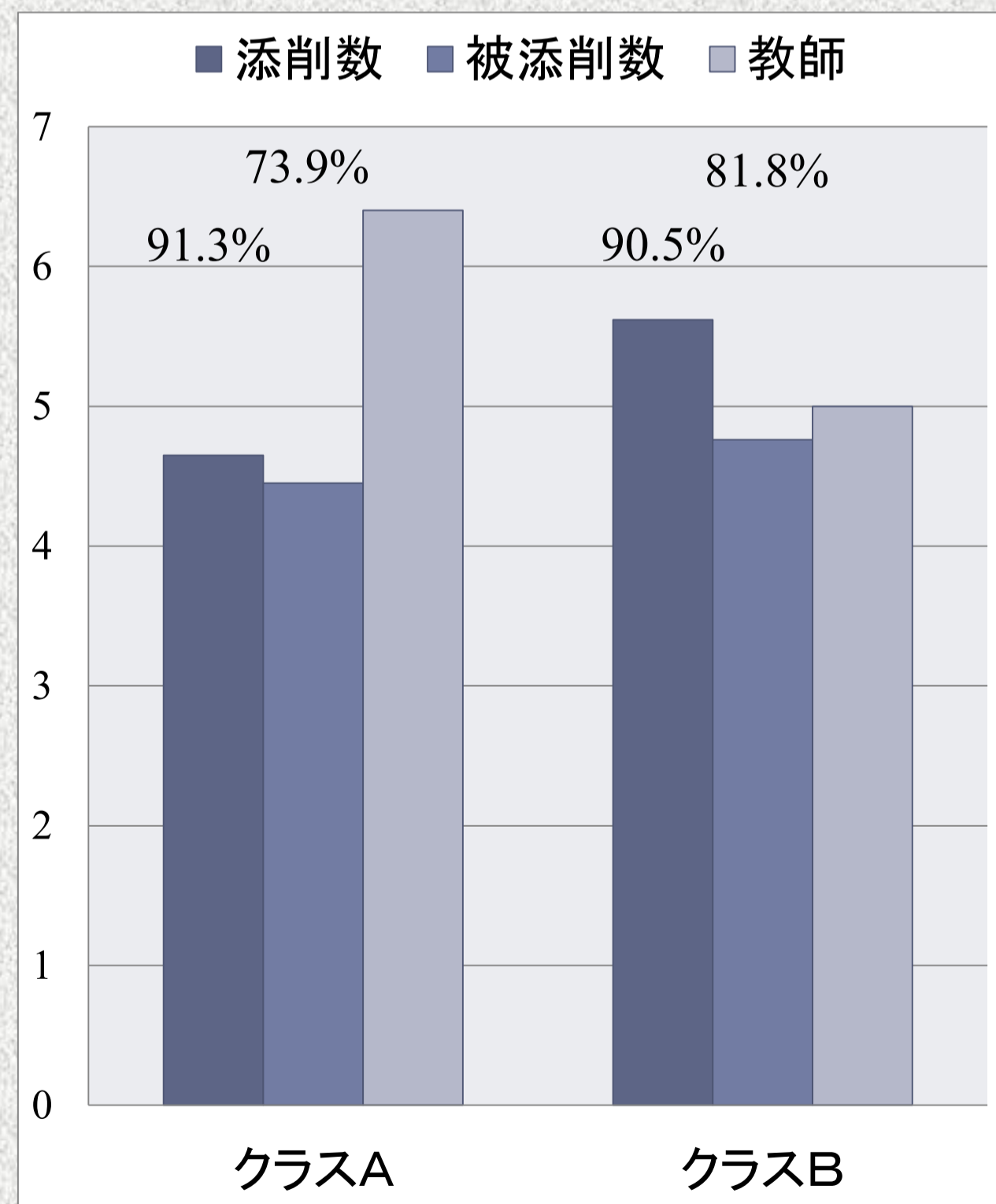


表1 添削数

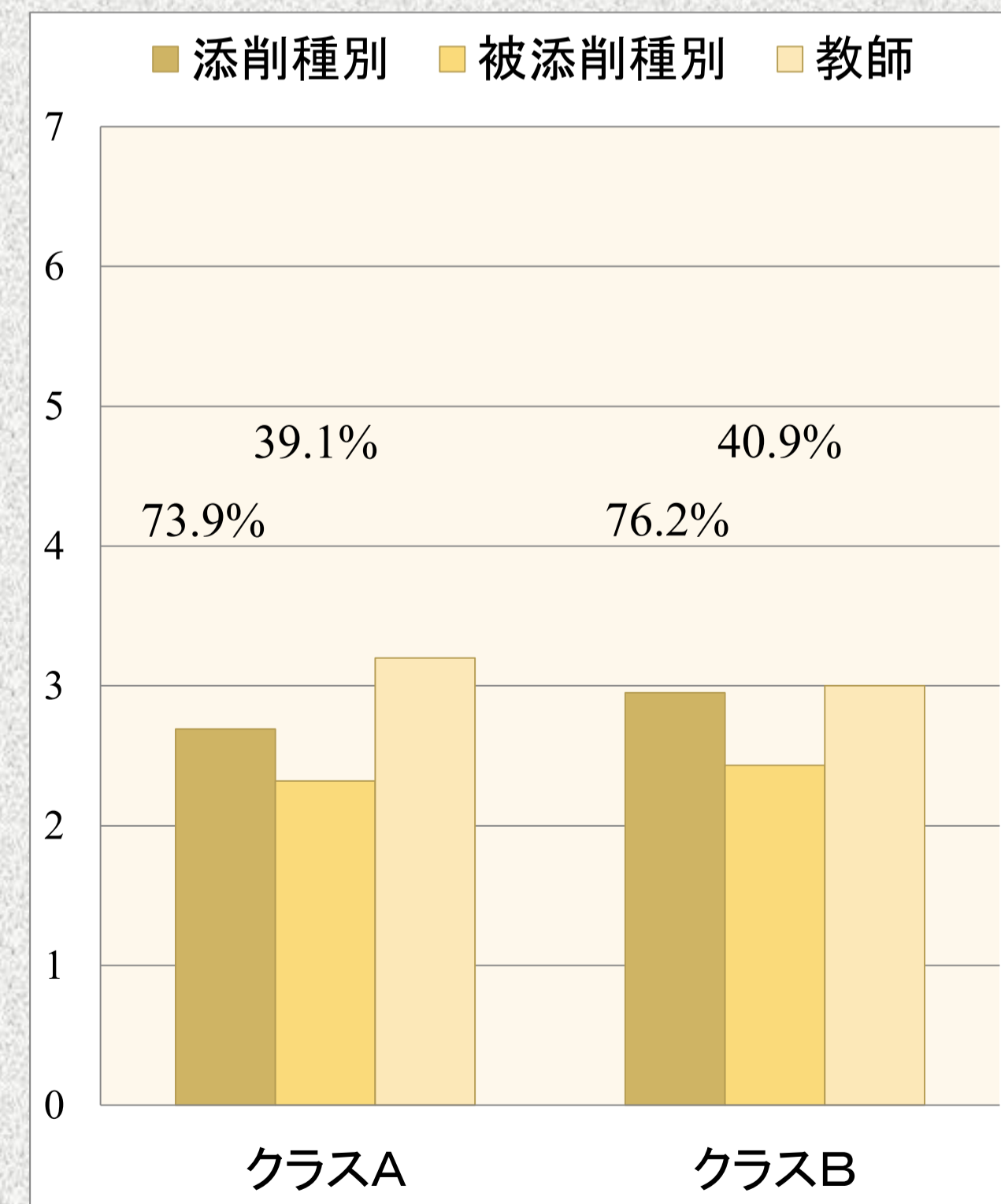


表2 添削種別

■ 考察

● 添削数・被添削数の観点から

- 添削数： それぞれ平均 4.65, 5.62 箇所
両クラスとも, 90% 以上の充足率
(規定添削数5を満たした学習者の割合)
- 被添削数： 添削数よりも少ない(4.45, 4.76 箇所)
 - 添削が不要な作文も存在
 - クラスBは教師の添削数(5.0)との差が小さい

添削の数の面では, 目的を達成

● 添削種別, 被添削種別の観点から

- 添削種別, 被添削種別数ともに, 規定添削種別数3に及ばない
 - 教師の添削種別数がそれぞれ 3.2, 3.0
 - 学習者の能力の限界に近い

規定添削種別数は, 適切

● 添削数, 添削種別数の規定

- 相互添削前の教師の簡易添削は, 相互添削時・後の指導に有効
- 教師の簡易添削数よりも大きな値を設定するのが有効
ただし, 簡易添削数に達しない部分は, 教師の補助が必要

■ まとめ

- 学習者の添削, 添削種別数に基づいた相互添削促進手法を提案し, 実際の授業で有効性を確認
 - 添削数： 充足率 90% 以上
 - 添削種別： 教師の行った添削種別数に近い
- 教師の簡易添削の実施は, 授業での指導のための情報として有用